



## 海外出張報告書 地域文化研究専攻 D3 全 永彬（日本）

このたび、私は「卓越した大学院拠点形成支援補助金経費」の援助を受け 2014 年 2 月 20 日から 3 月 15 日まで 24 日間にわたって、アメリカにて学会発表および諸資料館にて資料調査を行いました。

私は 2 月 20 日から 2 月 26 日までの間におけるボストン滞在のうち、2 月 21 日に CGIS (Center for Government and International Studies) で開催された Crossroads of East Asia: The 17<sup>th</sup> Harvard East Asia Society Conference にて *Tourist Delusions: Japanese Tourism to Colonial Korea* の発表を行いました。

Alexander Zahltén ハーバード大学教授をはじめたくさんの来訪者から質問をいただきながら、未だ公論化していない植民地観光の学問的位相を確認すると同時にこの研究テーマが持つ潜在性を改めて知らされたと思います。

次の 2 月 27 日から 3 月 5 日までの間におけるワシントン DC 滞在中には、日曜日や大雪で閉鎖された特別休館日を除く毎日議会図書館の Jefferson Building 内に位置する Main Reading Room および Asian Reading Room にて日韓では所蔵がない貴重資料を閲覧・収集しました。なかでも戦前国際観光局がアメリカで発刊した雑誌 *Travel in Japan* の原本資料が確認できたことは、博士論文においてアメリカという軸が帝国日本の植民地観光に関わる様相を論ずる上で極めて重要な成果であります。

そのほかにも議会図書館で確認できた様々な旅行記は、戦前における人々の海外行きが単一のファクターや構図を軸にまとめられるものではないことを明らかにするものです。そして今現在私が第一課題としている戦後直後における米軍による日韓観光の全貌を伝えてくれる軍によるガイドブックの発掘もまた大きな成果だと言わざるをえません。

その後の 3 月 6 日から 10 日までの間および 12 日から 15 日までの間に滞在したニューヨークでは、マンハッタンに位置する New York Public Library (NYPL) にて資料調査を行いました。本来計画していた日系人の方々とのインタビューは、当時 Upper East Harlem 地区で発生した建物崩壊事件の余波で取り消しとなりました。NYPL では戦前において日本旅行を企図したアメリカの人々が持っていた日本趣味に関する記録が多く入手できました。

3 月 10 日から 12 日まではロサンゼルスに飛び、全米日系人博物館 (Japanese American National Museum) を訪ね日系人の日本旅行 (祖国訪問・ノスタルジアの観点から) の記録を探る傍ら Los Angeles Public Library (LAPL) でアメリカ人の日韓旅行の記録を収集しました。

これから引き続き以上の広範な資料調査の成果を日本で行ったそれと比較・検討し、3 本の投稿論文としてまとめつつ、最終的には博士論文に的確に反映することにしたいと思っています。

このような貴重な調査および経験をさせていただくにあたって、多大なる支援をくださった地域文化研究専攻とその関係者に心より感謝いたします。

以上